

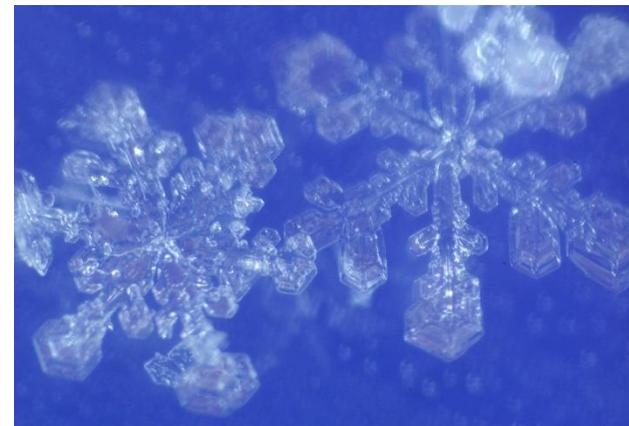
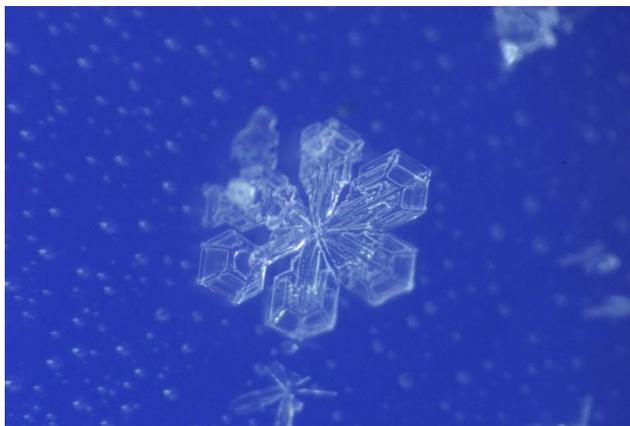
<自然雪の顕微鏡写真> (NPO ふくい科学学園)

福井県大野市、国民宿舎パークホテル九頭竜にて撮影 (2017年1月24日～25日)

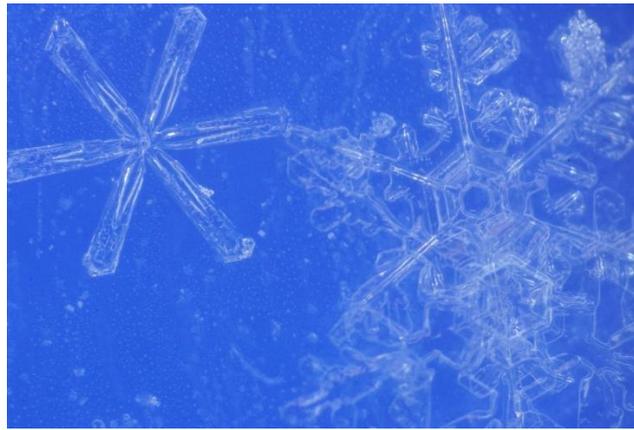
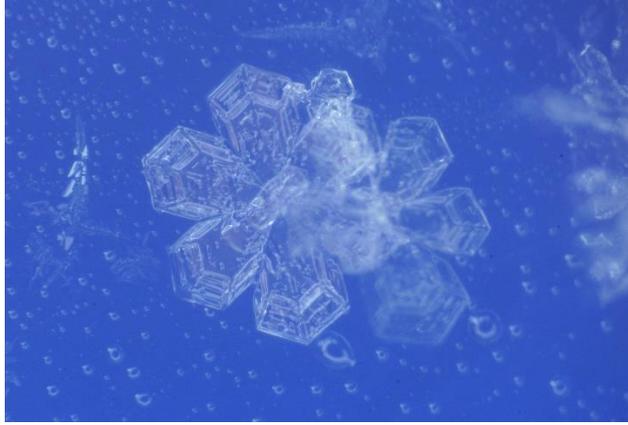
これらの結晶写真は、先日、1月24日の夜から、25日早朝にかけて福井県大野市和泉(パークホテル)で撮影したものです。最後の結晶写真は、昨日のNHK福井のニュースザウルスで放映されました。この結晶は中央の六角の部分に角板(かくばん)結晶でそれが樹枝状結晶に成長したものです。

雪に塩を混ぜてマイナス20度の低温を作り、その上に基板を置き、基板に雪をとらえます。北海道などでは外気温がマイナス10度以下なので顕微鏡の下に雪を置いてもとけません、本州ではすぐにとけてしまうので、このような工夫が必要です。

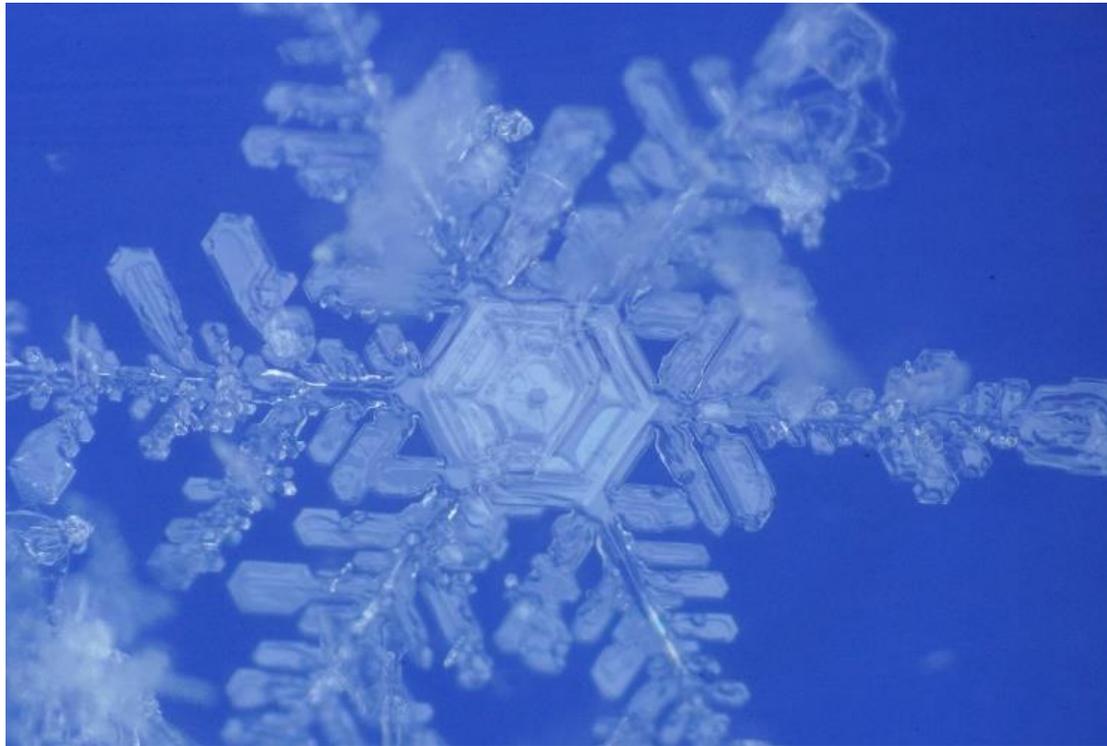
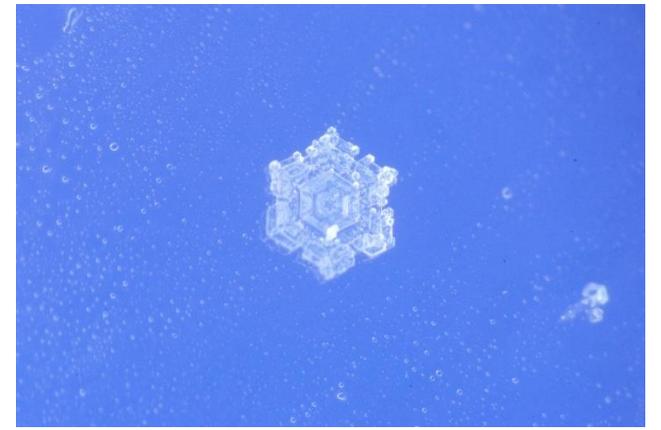
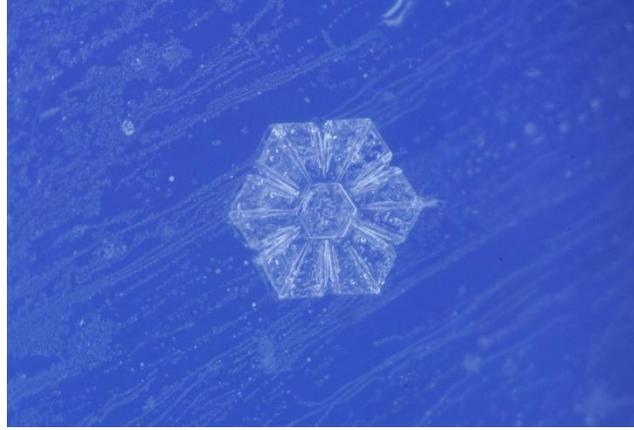
子どもたちがもっと雪の結晶に触れる機会があるとよいと思います。教科書に出ていないことは教育現場でなかなか採用しない傾向がありますが、自然にある素晴らしい教材をもっと有効に使うべきだと思います。現在、小学校でも実体顕微鏡が設置されているところが多くあり、それを使用すれば簡単に雪結晶をみることができます。



次ページに続く



次ページに続く



NHK 福井ニュースザウルス

で紹介 された TV 画面